

## 特集「体育・スポーツ・健康—三神憲一教授の退職を記念して—」の編纂にあたって

この度、滋賀大学経済学部社会システム学科三神憲一教授の退職を記念して、三神教授が長年研究を深めてきた「体育・スポーツ・健康」をテーマとした特集を企画することになりました。

三神教授は、全国的に学園紛争が激化していた1969年(昭和44)4月に滋賀大学経済学部助手として着任された後、1972年3月滋賀大学経済短期大学部との人事交流により、同助手、1973年5月同講師、1979年4月同助教授を経て、再び経済学部との人事交流により、1984年4月同助教授、1996年4月に教授に昇進されました。学部教育の分野では実技・講義として「体育Ⅰ」・「体育Ⅱ」・「スポーツ科学Ⅰ」・「スポーツ科学Ⅱ」・「身体運動の科学」・「健康論」・「スポーツ文化論」等の科目、加えて本学部体育科目の特徴である環境特性や学生の生涯スポーツの重要性を考慮した「ヨット実習」・「海浜実習」・「ゴルフ実習」・「スキー実習」等の屋外実習を担当されました。

学生支援の分野では彦根高商以来、伝統的に継承されている課外活動教育の充実・発展のため、「より力強く生きぬいていく」ことをモットーに「体育会」をはじめ「ラグビー部」・「少林寺拳法部」・「空手部」など数多くの顧問を務められ、学生に対して適切な指導・助言を与えられました。本年3月の退職までで累計1000名を超えるOB・OGがさまざまな職種で活躍しています。

三神先生の滋賀大学経済学部でのさまざまな業績の中で、特に学内行政については、経済短期大学部時を含め10数年間の補導員(現学生委員)と保健管理センター運営委員、とりわけ6年間の就職委員会委員(委員長を含む)などを歴任されました。常に学生との交流・対話を重視され、学生の就職指導に大いに貢献されてきました。

研究並びに社会的活動の分野では、一貫してラグビー競技に関連する幅広い研究を進めてこられました。代表的な研究では、日本ラグビーの将来を担う高校ラグビーの現状と課題をテーマとされ、九州・四国・中国・北信越ブロックの各県ラグビー専門委員長との聞き取り調査を中心に日本ラグビーフットボール協会の諸施策、とりわけ強化・普及振興・育成に対して現場指導者が感じる矛盾点・相違点を明らかにし、強化施策偏重に対して警鐘を鳴らすとともに早急な底辺部の支援策の必要性を説かれています。この研究は各ブロック指導者の生の声を詳細に検討されたものとして特筆すべきものです。

社会活動の分野では、永年にわたってラグビー競技の強化・普及・育成のために尽力され、日本ラグビー学会理事、関西大学ラグビーリーグ委員会顧問などを務められました。特に第36回滋賀国体(1981年)ラグビーフットボール大会ではヘッド・コーチの要職に就き、総合優勝に導いた指導力は今日でも高く評価されています。

本特集は、こうした三神教授の長年にわたる学内外の研究・教育活動に即したテーマを掲げ、現代社会や大学のなかで重要な課題である健康問題や

体育・スポーツに関わる諸問題を扱った論稿を掲載いたしました。執筆者はいずれも斯分野の碩学で、三神教授ゆかりの学内外の研究者です。

まず大学における学生スポーツのあり方について、溝畑寛治論文では、昨今多発する学生スポーツ界の諸弊害やスポーツ基本法の制定といった状況に鑑み、スポーツマンシップやフェアプレー精神、チームワークといったスポーツ本来の理念に立ち返りながら現状を再考し、そのあるべき姿について貴重な提言を行っています。道上静香論文は、滋賀大学発足以来今日に至るまでの経済学部における正課体育の歴史の変遷を振り返り、各年代の社会状況に対応した正課体育の意義と役割を跡付けるとともに、本学部の体育教育がいかなる独自の課題に取り組んできたのかについても明らかにし、今後の正課体育のあり方を考察する上で有益な材料を提供しています。

次に、生涯にわたる健康・体育・スポーツの基礎となる身体活動や立位、体力等に関して、新宅幸憲・宮本孝・藤永博の各氏が独自の方法によって検討を行なっています。新宅幸憲論文は、日常生活における心身の状態や体力と密接な関係があり、従来躰教育として重視されながら昨今軽視されがちなる姿勢教育に関して、幼児期に対象を定めて、立位姿勢における静的平衡性の問題を、重心動揺・運動発達・足底面の関連性から追及したものです。宮本論文は、高齢化社会を迎え、高齢者の健康と身体活動能力の維持が重要課題となっている昨今の日本の状況に鑑みて、高齢男性を対象にした横断的な測定結果に基づき、加速度計法からみた身体活動量と体力との関係について解明を試みています。藤永論文は、身体運動の基礎となる空間での身体位置を制御する能力に関して、安静立位時の自発性動揺の動的特性を動揺の相互構造(フラクタル性)から解明しようとしたものです。

これら、「体育・スポーツ・健康」をテーマとした特集論文とともに、三神教授の退職を記念して、森将豪教授が論稿「P2Pビデオ配信機構の開発とその評価」を、神山進教授が論稿「商品による消費者の自己拡張」を、また小西中和名誉教授が論稿「ジョン・デューイの日本論」を、それぞれお寄せいただきました。さらに、二上季代司教授・田中英明准教授・清宮政宏准教授・鈴木正信特任准教授からもご専門に即した興味深い論稿が寄せられています。あわせて御参照ください。

このような本特集号に結集した諸論稿が三神憲一教授の優れた研究・教育業績を顕彰するとともに今後の学問研究に大いに資することを切に願いたします。また三神教授の今後ますますのご健勝とご健康を、全滋賀大学経済学会員に代わり、心からお祈りいたします。

2012年3月

滋賀大学経済経営研究所長 筒井 正夫